

私立大学研究プランディング事業

平成30年度年度の進捗状況

学校法人番号	231030	学校法人名	足立学園					
大学名	愛知文教女子短期大学							
事業名	「食物アレルギーの子どもを守る大学」へ－保育所における職種間連携を含む食物アレルギー教育推進事業－							
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	510人			
参画組織	生活文化学科食物栄養専攻、幼児教育学科第1部および第3部、プランディング事業委員会、SD委員会、FD・学術研究委員会、広報委員会、研究プランディングプロジェクトチーム							
事業概要	<p>本学は保育士と栄養士の養成施設である。本事業では保育所での食物アレルギー事故防止の視点から、保育士と給食担当者(栄養士等)への職種間連携を含む「食物アレルギー教育」内容と教授法を研究により明らかにする。これは校祖足立闘励の『真心を通わせることで「信用」「信頼」が生まれる』という信念を象徴していることから、「食物アレルギーの子どもを守る人を育成する」という本学のブランド確立に向け全学的に推進する。</p>							
①事業目的	<p>【社会的ニーズ】アレルギー疾患有する子どもの増加に伴い、保育所での対応が求められているが、食物アレルギーに関しては「誤配・誤食」事故が起きているのが実情である。理由として保育室と給食室間のコミュニケーション不足が考えられ、ガイドラインの徹底とともに「事故防止」のためには、保育士と給食担当者の食物アレルギーへの正しい理解と連携が不可欠である。</p> <p>【研究ニーズ】食物アレルギー教育が保育士および栄養士養成施設においてどの程度実施されているかは明らかになっておらず、「専門職連携」に関しても保育分野で求められる協働の在り方や方法、教育方法などは研究されていない。</p> <p>【自大学と研究テーマの関連性】本学は同キャンパス内で保育士と栄養士の専門職人材を養成し、社会に輩出しているが、ここに教育・研究のフィールドがある。食物アレルギー教育に関しては平成15年より学内で開催している、食物アレルギー対応クリスマスパーティ「みんないっしょのクリスマス」が基盤となっており、幼児教育学科においても平成26年から「乳幼児食物アレルギー演習」を導入、学生の教育成果に関する研究を学会等で報告している。本事業の推進により、「食物アレルギー教育」を発展させ、保育士および栄養士養成施設における教育の充実と発展に寄与し、保育所における食物アレルギー事故減少に貢献できる。</p> <p>保育士と給食担当者の有機的な職種間連携を含む「食物アレルギー教育」の内容と教授法を開発することで、これをリカレント教育や一般市民への生涯学習としても展開する。本学独自のこの事業を通して「食物アレルギーの子どもを守る」人材を育成する大学として「食物アレルギー教育」の拠点となることを目指すものである。</p>							
②30年度の実施目標及び実施計画	<p>【実施目標】プランディング事業委員会は翌年の中間評価に向け、外部評価を受け、事業の審議を行う。研究部門統括会議は、開発した専門職連携を含む「食物アレルギー教育」の実施・検証と学会発表等を行う。</p> <p>【実施計画】プランディング事業委員会は、外部評価委員による評価を受け、関連団体対象中間報告会を開催し、本事業のヒアリング、中間報告書を作成し、事業のさらなる推進を図る。養成施設チームは改変した食物アレルギー教育効果を学習到達度テスト、ループリック評価で測定する。保育所チームおよび養成施設チームは協働で「食物アレルギーワークブック」の作成に取り組む。保護者チームはトレーニングルームを活用したりカレント教育を実施する。プランディングチームはプランディング事業中間成果報告パンフレットを作成する。</p>							

<p>③30年度の事業成果</p>	<p>【教育・研究】平成29年度に本事業で実施した保育所アンケート調査および保育士養成校アンケート調査の分析を行い、学術学会等での発表を行った。(日本栄養改善学会、日本医療福祉連携教育学会ほか、8月から9月)また、(一社)愛知県現任保育士研修運営協議会からの委託を受け「平成30年度保育士等キャリアアップ研修」を開催した。「食育・アレルギー対応」を担当し、講義、実習などを行うとともに、テキスト作成を行い、配布した。(8月)この研修会においては、新たに開発したループリック評価を導入し、新たに現任の保育士対象とした職場における食物アレルギー対応実態についてアンケート調査を実施した。得られた調査結果は、昨年度実施の保育所調査結果とともに、今後比較分析を行うことができる。</p> <p>事業専用サイト「はっぴーと」にて、12品目の食物アレルギー対応食調理動画(食物アレルギー教育研究トレーニングルームにて収録)を公開するとともに、各種研究活動の報告も公開した。食物アレルギー教育研究トレーニングルームは大学全体の授業利用以外に、各自治体・外部団体より受託した食物アレルギーに関する研修会の会場として活用した。研修会における講師派遣依頼は10件を超え、本学が「食物アレルギーの子どもを守る大学」であるという認識が広がっていることが実感できた。</p> <p>食物アレルギー対応クリスマスパーティー「みんないっしょのクリスマス2018」を幼児教育学科、生活文化学科の協働型で開催した。(12月)また、「文教こどもフェスタ」においては、食物アレルギー児の保護者対象の栄養相談を実施した。(1月)両学科協働することで、学生と教員双方が「食物アレルギー」という統一キーワードを通してお互いの専門性への理解と意識向上が図られた。</p> <p>全学科の卒業学年学生への食物アレルギー教育の効果測定として、「到達度テスト」を実施した。(2月)</p> <p>アレルギー児と保護者対象のイベントにて保護者対象のアンケート調査を行うとともに、本学の食物アレルギー教育への取り組みを紹介した。(3月)このイベントを通して、食物アレルギーに関する保護者ニーズを再認識できたとともに、情報提供内容や方法について今後の検討課題が明らかになった。</p> <p>【大学プランディング】本事業を高校生にわかりやすく伝えるためのツールとして広報誌「CoToCoTo(高校生向け)」を作成し、資料請求者やガイダンス参加者、オープンキャンパス参加者などに配布した。(7月)これにより、本学の取り組みを広く紹介することができた。同じくプランディング事業を進める広島文化学園大学と共に「研究成果報告会」を相互に開催した。(2月:広島、3月:名古屋)大学関係者などが多く参加し、これまでの両大学の取り組みを広く紹介するとともに、大学間の情報交換や交流が促進された。</p> <p>これから本学が目指す姿を教職員全員で考え、共有し「ひとを想う挑戦」というブランドビジョンを決定した。(8月)同時に大学のシンボルロゴマークを学内教職員から募集し、決定した。(1月)今後の事業展開や広報戦略においても、このブランドビジョンとロゴマークを前面に押し出し、活用していく。</p>
<p>④30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>【研究・教育】29年度に行った調査研究から得られた結果を分析・考察し、各種学術学会等で発表することで、本学の取り組み内容を大学関係者等に周知できた。</p> <p>「保育士等キャリアアップ研修」を受託することで、生涯学習としての食物アレルギー教育に着手できた。また、この研修のテキストを作成することで、ワークブック制作の原型とすることができた。</p> <p>食物アレルギー教育研究トレーニングルームを使用した研修会や保護者向け勉強会を開催したこと、この施設にて収録したレシピ動画を事業専用サイトにて公開したことにより、本学の取り組みを広く社会に向けて発信することができた。</p> <p>【大学プランディング】高校生に向けた本事業紹介冊子を作成し、ガイダンスやオープンキャンパスにて配布することで、本学を受験対象と考える高校生に効率よく事業内容を伝えることができた。また、本学の入学試験の志望動機に「食物アレルギーの子どもを守る大学」というキーワードが使われるようになった。</p> <p>同じプランディング事業に選定された他大学と共に「研究成果報告会」を行ったことで、プランディング事業への相互の理解が深まり、研究への取り組み体制やその内容などを参考にすることができた。また、本事業に対する学外からの評価を得ることができた。</p>
<p>⑤30年度の補助金の使用状況</p>	<p>(外部評価)</p> <p>本事業の外部評価委員による30年度の取り組みについての評価は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の大規模調査等の解析と分析、発表に期待する。 ・食物アレルギー教育が実践されている様子がよくわかった。 ・事業専用サイトの益々の充実と発展に期待する。 ・調査研究の手法では、将来的にコホート調査までできると良い。 ・事業内容が実践的な活動になっているところが高く評価できる。 ・大学プランディングの方向性がもっと明確に見えると良い。
<p>⑤30年度の補助金の使用状況</p>	<p>【平成30年度私立大学等経常経費補助(特別補助)】</p> <p>上記支援のもと、以下の事業に関連した経費を適切に執行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査研究費、学術学会における発表等に関わる費用 ・事業専用インターネットサイトの運用 ・ブランドビジョンとロゴマーク決定に関わる諸費用 ・中間成果報告会の開催 ・大学プランディングに関わる各種媒体の作成費用